



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

2007.11.7 (No.2479)  
週報 No.18

第2560地区ガバナー／渡辺敏彦  
会長／荻根澤 隆雄  
会長エレクト／中村和彦(クラブ奉仕A)  
副会長／菊池 渉(クラブ奉仕B)  
幹事／杉山幸英  
S A A／浅野金治  
会計／山田富義

例会日／毎週水曜日12:30～  
例会場及び事務局／  
三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内  
例会場／TEL 34-3311  
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-rc@cpost.plala.or.jp  
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/  
(“はshiftを押しながら“へ”のキーを  
押してください)

■本日の出席会員数:62名中43名  
■先々週出席率:83.33%

【ゲスト】

・坂田動物病院  
院長 坂田郁夫 様

【先週のメイクアップ】

【11.1】三条ローターアクトクラブへ  
・成田秀雄さん、伊藤寛一さん  
・斎藤真澄さん  
【11.5】三条南RCへ  
・五十嵐晋三さん、五十嵐昭一さん  
・武田真二さん、杉山幸英さん  
・石月良典さん、石橋育於さん



「ロータリーは分かちあいの心」  
2007～2008年度国際ロータリーのテーマ



ペチュニア

会長挨拶

荻根澤隆雄 会長



ご挨拶を申し上げます。

先週は親戚の葬式に参列の為に休ませて  
頂きました。またもや菊池さんから代わっ  
て頂きましたこと、御礼を申し上げます。

私の代わり役として菊池さんからやって  
頂くことと、私が菊池さんの代わりを務め  
るべく相殺(葬祭)ができないことに申し  
訳なく、また、ひたすらにお詫びを致すば

かりであります。

先月末の30日にGSE(研究グループ交換)事業の中で三条  
地区が受け入れました。東クラブが主管となって3クラブが  
サポート役で内容については週報にてご報告をさせていただきます  
が、国際奉仕委員長の高橋さんと杉山幹事、中村会長エレ  
クト、そして石月副SAAのご協力が無事終えましたこと、ご  
報告をさせていただきます。

今一つのご報告ですが、既に新聞等でご存知かと思いま  
すが当クラブ直前会長の渡辺さんが、秋の叙勲で旭日小綬章を  
受章されましたこと、この素晴らしいニュースにクラブとし  
ても大変に喜ばしく、また誉とも感じます。

本人はもとより、ご家族、とりわけご内助であります奥様  
が大変にお喜びのことと推察を致します。ともあれ、大変に  
おめでたいニュースです。

渡辺様大変におめでとうございませう。心よりお祝いを申し  
上げます。

私には全く無縁であります春秋叙勲ですが、日本の栄典制  
度を調べましたら勲章と褒章があり、勲章は6種類、褒章も6

種類で各々等級といたしますか、違いがあります。当然ですが、予定受賞者の功績の内容により決められるようです。内閣府賞勲局で厳正なる審査の上で授章の運びとなる訳ですが、詳しくは県や市などへ聞かなくともインターネット上で知ることができます。本当に便利になったものです。

挨拶を終わります。

## 幹事報告

杉山幸英 幹事

◎三条市特別支援教育研究協議会より、市民特別支援学級児童生徒「ウインターフェスティバル」のご案内が届いております。

と き 12月7日(金)

ところ 三条市総合福祉センター

佐野勝榮さん

日曜日、妙高火打山2,462mを登って来ました。頂上付近は雪がサラッと積もっていました。同行した小出さん、橘さん、ありがとうございました。

川瀬康裕さん

いい天気ですね。今日で看護学校講義最後です。五十嵐昭一さん、船越正夫さん、高橋 司さん、佐藤 武さん、丸山行彦さん、樺山 仁さん、松永一義さん、明田川賢一さん、若槻八十彦さん、金子俊郎さん、石月良典さん

坂田院長様卓話ありがとうございます。

楽しみにしております。

石塚欣司さん

都合により早退します。

11月7日分 ￥ 23,000

今年度累計 ￥555,000

## ニコニコBOX

荻根澤隆雄さん

先週はお葬式で休みました。菊池さんには再度お世話になりました。

坂田様卓話ありがとうございます。

杉山幸英さん

朝晩めっきり寒くなりました。残暑が懐かしく思えてきます。

坂田様卓話ありがとうございます。

熊倉博之さん

明日で50歳になります。

外山雅也さん

渡辺勝利さんの叙勲お祝い申し上げます。

山田富義さん

我が家のサザンカ(ピンク)がきれいに咲いています。

坂田院長卓話ありがとうございます。

石倉政雄さん

伊勢神宮・熊野三山に行ってきました。みそぎをすませ、きれいな体になりました。

橘 直樹さん

11月4日(日)、素晴らしい樹氷を眺めながら、妙高の火打山登山を楽しんできました。

佐野さん、小出さん、ありがとうございました。

## 財 団 BOX

荻根澤隆雄さん

先月28日(日)、次男が結婚致しました。

秋晴れで大変に良かったです。

また、クラブより祝電を頂きました。感謝を申し上げます。

11月7日分 ￥ 10,000

## 卓 話

坂田動物病院 院長 坂田邦夫 様



私が三条市で動物病院を開業して、早30年が経ちました。はじめの10年は、犬は一部の小型犬を除き、ほとんど野外飼育、ネコは出入り自由でフィラリア症や交通事故は日常茶飯事でした。

その後、15年位前からペットからコンパニオンアニマル(伴侶動物)

として、飼い方に変化が出てきました。

その前に「動物のお医者さん」という漫画が火付け役だったようですが、ハスキーブームがあり、その後の大型犬ブームで、日本中にしつけの重要さが認識され始めたのでした。

阪神大震災では、3,000匹以上の犬が、飼い主が分からなくなったり、避難所には動物と一緒に入れなかったりと、さまざまな問題が起きました。大型犬ブームと災害時などの対応のため、その後、しつけ方教室が日本中に根付いたのでした。

「しつけ方教室」という名前ですが、ちょっと聞き慣れない方も多いかもかもしれません。そのころまで犬のしつけといえば、預けて訓練してもらう形式が一般的でした。そういう犬は、家庭でというよりは、警察犬などの訓練競技会などに参加することが目的だったため、あまり普通の家庭でしつけるという習慣はありませんでした。この「しつけ方教室」では、飼い主さんが指導を受けながら自分の犬を自分でしつける、ということに大きな意義があるのです。犬は相手を見ますので、専門の方の言うことは聞くのですが、家に帰ると家族の言うことは聞かなくなる、などの問題があったからです。

三条市の家庭犬のしつけ方教室は平成2年からで、行政が関与してのしつけ方教室は全国で一番早い方でした。その後、少子化と高齢化に伴い、動物が家族の一員として位置づけられ、伴侶動物としてかわいがられるように変化してきました。

また、前後しますが、動物を伴って高齢者や子どもの施設を訪問するCAPP活動、いわゆるアニマルセラピーですが、日本でも始められるようになり、この新潟でも平成元年からスタートしています。隣の燕市にある福寿園ではその時から現在まで、19年間ずっと活動しています。

こういう活動は、伴侶動物の地位を認めてもらうという点では意義があったと思います。

また、私たち獣医師会は学校飼育動物の問題にも取り組んでいます。私の病院では、ずっと無料で学校の動物の診療をしてきましたが、群馬県などは各学校に校医さんのように、学校獣医師を置くようになりまして。もう10年くらい前ですが、朝日新聞に

群馬県が全面広告を出してアピールしたのを見た方もいらっしゃるかもしれませんが。学校では、当たり前のように動物を飼育しながら、動物のための予算がずっとなかった、ということをご存じですか。餌も、治療費も、です。

飼い方がわからないためにウサギが増えすぎ、50匹以上になってしまって、生まれても死んでも学校は知らん振り、というようなこともずっとあったのです。私たちが無料で診ていたのは、お金がないために見殺しにするようなことを、子どもに当たり前だと思って欲しくなかったからです。現在、獣医師会では、こういう定期的な指導を含めた契約を市町村などと締結する活動を進めています。残念ながら、こういう契約は三条市とはまだ整っていません。

現在、世界の動物愛護の考え方は5つの自由(ファイブフリーダム)が国際的な共通認識となっております。これは伴侶動物のみならず、産業動物や実験動物、動物園や水族館などにおける展示動物にいたるまで、人と動物が共に幸せに暮らせる社会を目指して、ひいては自然環境、地球環境までを考えていくように変化し始めてきました。

5つのフリーダムとは、①飢えと渇きからの自由、②肉体的苦痛と不快からの自由、③外傷や疾病からの自由、④恐怖や不安からの自由、⑤正常な行動を表現する自由です。

動物愛護という言葉は英語にするには難しい。また、「愛する」とか「保護する」という言葉は、いろいろな解釈ができます。例えば、十分な世話ができないくらいの数の動物を飼っていて、近所で問題になっている人の話が時々テレビなどに出てきますが、そういう人は決まって自分は動物を愛しているとか、かわいそうな動物を保護してあげているというようなことを言います。ですから、世界的な認識では、この5つの自由が守られているか、という考え方、福祉が守られているか、ということが重要で、それが守られていなければ虐待であるという考え方になってきます。

最後に、動物愛護センターが全国の都道府県や政令指定都市にある中、新潟県、そして新潟市にはない、ということをお話したいと思います。

新潟県では動物保護管理センターは全国に先駆けて、30年前に作られました。でも、施設は老朽化し、さらに平成12年に動物愛護法ができたのですが、それに対応するような施設は、残念ながら新潟県にはありません。全国でないのはあと10県に満たない、5、6県です。新潟県もようやくできそうなのですが、このところ様々な災害があつて、どんどん遅くなっている現状です。

現在の日本では、15歳未満の就学児童の数より、家庭で飼育されている犬猫の数の方が多くなっていま



す。新築のマンションでペット飼育可能なのは、15年前には1%にも満たなかったのが、ここ数年で50%を越したということです。

少子化が進む中、子どもに相手を思いやる気持ちや、死の悲しみ、世話をする大変さと楽しさを教えてくれる、動物の飼育に対するニーズは、ますます伸びると思います。

私の動物病院では、犬が約50%、猫が約40%くらいだったのが、最近は猫の割合が増えつつあります。そして、数的にはそんなに増えていませんが、大事に飼ってくれる方が多くなった、というのが実感です。

3年前から、CTを導入しました。県内のいろいろなところから、紹介でおいでになる方も増えてきました。

私の病院では、犬のしつけ方教室もやっていますが、飼い主さんに大事に飼ってもらえるように、犬のことを知ってもらいたいと願っているからです。また、しつけがされていて、人に馴れていると誰からもかわいがってもらえます。それが災害のときにも、とても役立ちます。ケージに入るのを好きにしておくのもそうです。犬を飼っている方、特にこれから飼おうという方は、ぜひ、誰からもかわいがられるようにしてあげてください。

## 2007～2008年度研究グループ交換(GSE)を分水RCより三条市内4クラスが担当し、10月30日三条RCが担当で三条市長訪問を行いました。



### ●GSEの目的と目標

ロータリー財団の研究グループ交換(Group Study Exchange :GSE)プログラムは、事業と専門職務経験の浅い若い人々に、文化と職業上のまたない国際交流の場を提供するものです。

このプログラムの目的は、若い職業人が地域社会のニーズと国際化の進む職場のニーズに対応できるよう専門の技量と指導力を磨かせることにあります。

一般にGSEチームは24歳以上40歳未満の4名の非ロータリアンと1名のロータリアン・リーダーで構成され、海外に旅行し、各種の研修活動に参加するという広大かつ厳しいプログラムを遂行します。

次週例会 11月21日 外部卓話 「裁判員制度について」  
新潟地方検察庁 西連寺 検事 様

次々週例会 11月28日 外部卓話 三条消防署 様

